

令和5年度 梅 (単植園) 病害虫防除暦

JAながの【ちくまブロック】

※ 近年の梅生産は防除不足による、黒星病・かいよう病・アブラムシの発生が目立ちます。
 しっかり防除暦に沿って散布をし、良品生産につなげてください。

回数	散布時期	IRAC FRAC コード	散布薬剤		収穫前 使用規制	10a 散布量	対象病害虫	注意事項
1	2月下旬 } 3月上旬	- M2	水 Y-ハッテン(展着剤) 石灰硫黄合剤	90 l 20 ml 10 l	発芽前	250 l	カイガラムシ類 越冬病害虫	○ 温暖無風の日に幹・枝を洗うように丁寧に散布する。 ○ コスカシバの発生が多い園では、左記防除後にガットキラー乳剤100倍(休眠期)を主幹部に限定し、手散布でたっぷり散布する。(竜峡小梅開花前)ただし、石灰硫黄合剤との混用はできないので、単剤で防除を行う。
2	3月上旬	- 16	水 スプレーオイル アプロードフロアブル	98 l 2 l 100 ml	- 7日	250 l	カイガラムシ類	○ カイガラムシの発生が多いので、石灰硫黄合剤散布後、一週間程度空けて散布を行う。 ※ 混用の際はスプレーオイルの次にアプロードフロアブルを入れる。
3	落花直後	- 41 1	水 Y-ハッテン(展着剤) マイコシールド トップジンM水和剤	100 l 20 ml 66 g 66 g	21日 21日	300 l	かいよう病 黒星病	
4	4月下旬	- 41 M2 4	水 Y-ハッテン(展着剤) マイコシールド コロナフロアブル Ⓜ モスピラン顆粒水溶剤	100 l 20 ml 66 g 200 ml 50 g	21日 - 前日	300 l	かいよう病 黒星病 アブラムシ カイガラムシ類	○ コロナフロアブルは高温時の散布で薬害を生じる事があるので散布は早朝の涼しい時間に行う。
5	5月上旬	- M2 31	水 Y-ハッテン(展着剤) コロナフロアブル スターナ水和剤	100 l 20 ml 200 ml 100 g	- 7日	300 l	かいよう病 黒星病	○ <u>大梅のみスターナ水和剤に替えてマイコシールド1,500倍(21日)を使用しても良い。</u> ○ アブラムシの発生が多い園ではⓂモスピラン顆粒水溶剤4,000倍(前日)を加用する。

6	5月中旬	- 4 31 M2	水 Y-ハッテン(展着剤) ㊦ モスピラン顆粒水溶剤 スターナ水和剤 コロナフロアブル	100 ℓ 20 mℓ 50 g 100 g 200 mℓ	前日 7日 -	400 ℓ	かいよう病 黒星病 アブラムシ カイガラムシ類	○ コロナフロアブルは高温時の散布で薬害を生じる事があるので散布は早朝の涼しい時間に行う。	
7	大梅のみ 6月上中旬	- M2	今回防除は大梅のみ散布を行う小梅は散布しない。 水 Y-ハッテン(展着剤) コロナフロアブル			100 ℓ 20 mℓ 200 mℓ	400 ℓ	黒星病	○ <u>童峡小梅にかからないように注意する。</u> ○ コロナフロアブルは高温時の散布で薬害を生じる事があるので散布は早朝の涼しい時間に行う。
8	9月中旬	M1	水 ICボルドー66D	100 ℓ 2 kg	-	300 ℓ	かいよう病		
9	12月 落葉後	1	水 ガットキラー乳剤	99 ℓ 1 ℓ	休眠期	150 ℓ	コスカシバ	○ コスカシバの発生が多い園のみ、主幹部を中心に、手散布でたっぷり散布する。	

※ 農薬の使用に関する注意事項。

- 梅の栽培に使用できる薬剤は、「うめ」「小粒核果類」「果樹類」「落葉果樹類」として『登録』のある薬剤でなければなりません。

『農薬取締法・食品衛生法(農薬の残留基準)を遵守した栽培を・・・』

- 防除・除草剤散布を行なう毎に、防除日誌に記帳をしましょう。販売開始前には、防除日誌の提出を頂き適正防除の確認をします。
- 防除暦に㊦と記入のある薬剤は、毒物劇物指定の剤ですので、購入時に印鑑を持参下さい。